地方都市・中山間地域の自治体による多文化化戦略（２）

－ベトナム人の受け入れを進める岡山県美作市の事例－

ノートルダム清心女子　二階堂裕子

1　目的

近年、少子高齢化や人口減少の著しい進行により、深刻な労働力不足に直面している地方都市や中山間地域では、外国人技能実習生（以下、「技能実習生」）の受け入れが急速に進んでいる。そうした過疎地域の多くは外国人住民の「非集住地域」であり、同郷出身者や支援者との関係形成が困難な状況にある（徳田ほか　2016）。また、多文化社会の構築に向けた政策の不十分さを抱えたまま、技能実習生の受け入れが先行しているがゆえに、技能実習生の適応や地域社会への統合が図られず、混乱が生じている地域も散見される。

そこで本報告では、自治体をあげてベトナムとの関係強化を図り、ベトナム人技能実習生の受け入れを精力的に推進している岡山県美作市を事例として取り上げる。まず、受け入れに至った経緯や行政施策の内容のほか、技能実習生の就労先企業や市民による取り組みについて明らかにする。そのうえで、技能実習生の受け入れをめぐって地方自治体が取り組むべき課題を検討する。

2　方法

本報告は、美作市において行なったフィールドワークを土台としている。具体的には、市役所の技能実習生受け入れ促進担当部署、技能実習生受け入れ機関および就労先企業に対するインタビュー調査のほか、技能実習生との交流を目的とした市民団体における参与観察を実施した。これらから得たデータをもとに、技能実習生の受け入れがもたらした当該社会の変容、およびその成果について分析する。

3　結果

岡山県の北東部に位置する美作市は、人口 28,476 人（2017 年 5 月末現在）の自治体で、改革派市長の強力なリーダーシップのもと、2015 年度から「美作市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進している。その一環として、「地域産業の活性化と観光振興の充実」を重要政策の一つに位置づけ、外国人の移住、定住の促進、とりわけベトナム人技能実習生の受け入れに取り組んでいる。具体的には、ベトナム国立ダナン大学との相互協力協定締結、みまさか商工会とベトナムにおける技能実習生送り出し機関との事業協定締結、ダナン大学卒業生の嘱託職員としての採用、官民協働組織である美作日越友好協会の設立と交流事業の展開などがある。また、同市には、現在 80 人ほどのベトナム人技能実習生が就労している。今後 2020 年度までに 500 人の技能実習生を受け入れることを目標として掲げ、ベトナム語による生活・観光情報の発信事業にも着手する予定である。さらに、2018 年度に市内で開校予定の専門学校と連携し、エンジニア、看護師、および介護福祉士など、外国人高度人材の育成にも意欲的である。

4　結論

以上のように、美作市では、産業活性化に向けた方策として、外国人の受け入れに活路を見出そうとしており、商工会、地元企業、住民団体のほか、ベトナムの大学などとも連携を図りながら、地域社会を支える人材確保のための総合的な施策を展開している。こうした体制の整備により、技能実習生の生活支援や技能実習生が就労する企業の要望への対応が可能となるほか、技能実習生と地域住民の「顔の見える関係」の構築もゆっくりと進みつつある。

文献

徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子、2016、『外国人住民の「非集住地域」の地域特性と生活課題–結節点としてのカトリック教会、日本語学校・民族学校の視点から－』創風社出版